

介護相談員だより

2018年10月 第25号
連絡先：介護相談員事務局
四日市市介護・高齢福祉課
電話 354-8170
FAX 354-8280

発見！施設で活躍するボランティア！



施設で活躍する様々なボランティアの活動を、

①ボランティア紹介 ②利用者の反響 ③事業所の声 の3点に注目して紹介します

頼れる地元のボランティア！ (うねめの里デイサービスセンター)



- ① 地元の婦人会から派生した、ボランティアの「虹の会」が、施設の開所時より訪問しています。数名ずつ週2回訪問し、利用者とのコミュニケーション、入浴後の整髪、また季節のイベントをお手伝いしています。
- ② 地元のボランティアなので、地元の話題を話してもらえると、利用者も喜ばれ、盛り上がっています。
- ③ より多くの利用者の方とコミュニケーションをとっていただけるため、事業所としても助かっています。



納涼祭等のイベントでも、屋台や餅つきで、知識を活かして大活躍しています。

仏の教えをもっと身近に… (デイ・特養 かすみの里)

皆さん、お話を聞き入っています。



- ① 2ヶ月に1回の「法話を聞く会」では、お坊さんに法話をして頂き、皆でお経とお焼香をあげています。お茶菓子も出る気軽な会で、多くの利用者にご参加頂いています。
- ② 法話を聞いて涙を流す人や、利用日と重なるととても喜ぶ人もいます。
- ③ 施設にいながらお寺に通っているようだと、ご利用者の方に喜んでもらえるので有難く感じています。

衣類の繕いで、利用者の生活を支えています (小山田特別養護老人ホーム)



- ① 利用者のズボンのほつれを直し、ウエスト部分のゴムの入れ替えを行い、衣類が直っていきます。
月 1 回繕い物ボランティアに訪問してもらい、衣類の修繕をしてもらっています。
- ③ 頻繁にご家族が訪問できず、新しい服がすぐに用意できない場合には、職員で直すこともありますが、すべてに手が回らないため、ボランティアに入ってもらって助かっています。

10 年以上前から施設に訪問し、衣服の繕いをしています。



パイルさん



ケメ子さん

やっぱり見たい利用者の笑顔！ (とまりやまふれあいサロン)

- ① 利用者を「笑い」で楽しませているボランティアの 2 人。1 人は、落語や紙芝居を披露する「パイルさん」、もう 1 人は漫談、早変わりなどを披露する「ケメ子さん」。訪問のたびに着物やセーラー服など早変わりの衣装が違ってきます。ボランティアセンターで紹介のあった 2 人に直接お願いして、月に 1 回ほどの頻度で訪問してもらっています。
- ②③ 普段のレクリエーションとは一味違う「笑い」によって、利用者を楽しんでもらっており、笑顔が見られるので、職員も嬉しいです。



皆さんのお話を聞かせてください (みえの郷)

- ①② 週 1 回の傾聴ボランティアの訪問を利用者は楽しみに待っています。傾聴同好会ができた当初から継続して訪問してもらっています。当初は各自の部屋で個別に話を聞いてもらっていましたが、最近は交流スペースにみんなが集まり、一緒に歌うこともあり、利用者喜んでもらっています。
- ③ 職員が忙しい中でも、利用者のお話をたくさん聞くことができるため、助かっています。

平成29年度 第2回サービス向上連絡会 先進施設に学ぶ！認知症介護ケア

開催日時：平成29年12月13日（水）13時30分～15時30分

講師：公益社団法人 地域医療振興協会 志摩地域医療福祉センター
志摩市介護老人保健施設 志摩の里 原口 悦子 氏

認知症ケアの7大原則

1. 環境を変えない
2. 生活習慣を変えない
3. 人間関係を変えない
4. 介護をより基本的に
5. 個性的な空間づくり
6. ひとりひとりの役割づくり
7. ひとりひとりの関係づくり
(三好春樹著書より)

「生活を変えない」

⇒ 布団かベッド、トイレの位置等を自宅に近い環境にする。

「個性的な空間づくり」

⇒ 本人が入所前に、大切にしていたもの、日常的に使用していたものを部屋に置く。自分の部屋を自分らしく飾りつける。

「ひとりひとりの役割づくり」

⇒ 施設に入っても、おしぼりをたたんでもらう等、その人の役割を無くさないようにする。

志摩地域医療福祉センターの理念である「住み慣れた地域で幸福に暮らしたい」「明るく安心して暮らすことができる」を目指して、実際に施設で取り組んでいる認知症の7大原則に基づいた介護ケアについてお話いただきました。



平成30年度 第1回サービス向上連絡会 排泄の見直しに向けた取り組み ～自立支援のチームケア～

開催日時：平成30年8月10日（金）13時30分～15時30分

講師：社会福祉法人永甲会 特別養護老人ホームかすみの里
施設長補佐 奥田 史憲 氏



かすみの里での排泄介助への取り組み

生活パターンに合わせて対応

- ・排便、排尿のデータを取り、排泄時間を把握し、それに合わせてトイレ案内を実施

おいしく飲み物を飲めるように

- ・下剤が必要なのは水分が足りていないのでは？しかし、水分を摂取してくれない。
⇒本人の想いを探ると、飲みたいタイミングではなかった。
⇒飲みたいタイミングや、飲みやすいように工夫

オムツに関係する企業に依頼し、
研修やアドバイザーも利用
しているとのこと

排泄の見直しの根底にあるのは、本人の尊厳の保持や、その人にとってどのように暮らしをよくするのかであり、オムツ外しはそのための手段の一つと考えて取り組んでいるとのことでした。

新介護相談員紹介



加藤 恵美子

皆さんの意見や話をよく聞いて、少しでも役に立てるよう努力します。

いつも笑顔で、利用者の方と同じ目線で接することを心掛けています。



山下 君代



尋賀 節子

利用者の方の生活の質が向上するように努力していきたいと思えます。

利用者様、ご家族様の目線での代弁者となれるよう努力していきます。



矢田 宏子



吉田 よし子

利用者さん達の声に耳を傾け、表情をよく見ながら、施設、行政の橋渡しとなれるようがんばります。

これまでの経験や学んだ事を大切に介護相談員として頑張りたいと思っております。皆様ご指導の程よろしくお願いいたします。



櫻井 博

✿ 編集後記 ✿

今年の夏は例年になく、酷暑の毎日が続きましたが、8月後半よりややしのぎ易くなりました。各事業所では、「イベント」が開催され、地域との交流が活発に行われていることと存じます。

今回の「介護相談員だより」では各施設でご活躍されている「ボランティア」について取り上げました。今後も「介護相談員だより」が施設利用者、事業所、地域の皆様、また介護相談員と共有できればとても素晴らしいと思えます。今後ともよろしくお願い申し上げます。

✿ 広報委員 ✿

小川まゆみ・荻須千津子・丸山明美・宮田常光・森洋子

